

- 「健康手帳」を作ってほしいです。
- ぜひ作って下さい。長もちできるように、がんばるようにしてほしい。
- 健康手帳が私はあったほうがいいので、ぜひ作って下さい！死ぬまでの記録でもいいです。作るのがんばって下さい。
- ぼくは、ぜったいほしい それと写真をのせれるようにしてほしい。
- がんばってください。
- 私はぜひ作ってほしいです。がんばって下さい。かきやすいようにして下さい。
- ぼくは、作ってほしいです。ぜひ作ってください。ながもちするように作ってください。
- おとなになっても見れたらいいので作って下さい。やぶれにくくしてほしいです。
- どちらでもいいけどちょっとほしい。
- 健康手帳がほしいので、がんばってください。長持ちするように。
- 私は、この健康手帳はあまりほしくはないのですが、出来たならぜひ使いたいと思います。
- わたしは、「健康手帳」を、作ってください。
- しぬまでほしい。
- 健康手帳をつかって見たいです。大人までつかいたい。
- 私は、ぜひ作ってほしいです。
- 家族全員の健康手帳があったらいいと思う。
- めんどくさいからいやだ。
- めんどいことはやめましょう。
- 必要ない。

## ②健康手帳の内容について

- 病気についても知っておいた方がいいと思う。
- 生活にひつようなことが全部書いてあったらいい。
- わかりやすい説明がしてあればいいと思います。
- いつもより、よくわかるようにしてほしい。
- もっといろんな情報をのせてほしい。
- ゲームをしすぎたらどうなるのかを書いた方がいい。
- 勉強がなくなるとどうなるか。
- 自分の体のことなどをいち番よく知りたい。
- 自分の名前の意味が書いてあればいいな。体力測定が6種類もあるのがいい。
- 身長、体重について、グラフでくわしく書いてほしい。
- 病気のかからないような運動や生活の仕方をのせてほしい。身長や体重の変わり方をグラフにしてほしい。
- このアンケートになかったアトピーのことものせてほしい。(このアンケートに)
- 病気などについては、くわしく書いていてほしい。応急手当について、いつなにおこるかわからないので、くわしく書いてほしいです。
- 私も大人になったら自分のちっちゃいときの手帳をみて、けんこうをかんがえたいです。
- 学校で起こりえるけが、病気の対処法としょうじょう(スリ傷、つき指、ねんざ、骨折、脱きゅう、食中毒、おう吐、めまい、

脱力、日射病、気絶、脳震とう) 絵等でわかりやすく書くこと。

- 健康についてのアドバイスを書いてほしい。
- 健康手帳に平均体重も書いていたらい。
- 自分の一生の身長や体重。
- 血圧も測定し、健康手帳に書いてもらいたいです。
- 今まで、1年1年別々の健康調査帳だったけど、これから、6年分のを書ける物がいいです。理由は、小さいことと、比べられるから。記録から、なにか分かる。
- 身長と平均体重がのっている。
- ぎょう虫について、-・+とは、どういう意味なのか、かいておいてほしい。虫歯が何本あったのか、かいてあってほしい。
- 中がわかりやすく、字をはっきり書いてほしい。ないようもわかりやすく。カバーもあればいいと思います。
- 大人になってもわかるようにあまり小さい字でかかないで見やすいように書いてもらいたいです。
- 病気のことなどについて、(エイズ、生活習慣病)などのことをかいた健康手帳がいいなと思いました。
- できるだけわしく、わかりやすくしてほしい。自分で病気のチェックができるのものってほしい。
- 手帳に測定の事がわかって、次から気をつけようとしてきて便利です。健康の記録でも測定の事が書いていて便利と思っています。
- もっと病気のことについて書いてください。眼のことをもっとくわしく書いてください。
- 病気防止とか応急手当をくわしくかいてほしい。歯について眼についてをかくんなら耳とかもかいたほうがいい。
- 健康手帳の表紙はやさしい絵がいい(裏も) 平均体重や身長の表などを書いてあってほしい。
- エイズについておしえてほしいです。
- いろいろなからだやけんこうのことをいっぱい書いてほしい。
- どうしてアレルギーになるのですか。
- 一冊で1人ではなく、一冊で家族全員が入っていればいいと思います。
- この手帳があると、生まれた時の自分や、その時の親の気持ちなどがのっているの、いいと思う。
- デブかがりか、ちびかデカイのかは、自分でわかるし、ストレスは、みんな一つばいあると思う。
- こうどう(自分の子供の)を書きとめると、どのくらい成長したかがわかったり、そだてるときのアドバイスなどがかくらんであったりする。めんどくさくないでいどに、べつにかかなくていいや、と思わないよう。
- 今、インフルエンザがはやっていますが、さむいからだけではなく昔にくらべて体がよわくなってるからだと思う。だからこの手帳があったら健康かんりにいい。

### ③健康手帳のつくりについて

- 6ヶファイル風がいいと思う。(新しくページを増やせるから)
- よく見るものだと思うからカレンダーがあるといいと思う。(スケジュール表も)表紙に絵がほしい。(すきな絵)
- ひょうしにえをつけてほしい。(すきなえ)ふろくをつけてほしい。
- もし、健康手帳ができれば、表紙に自分の写真や、絵を書いたのを入れれるポケットをつける。
- 小さい方が持ち運びにかんたんだし、便利だから小さめの方がいいと思う。
- 小さいのがいい。
- すぐいたむといけないのでじょうぶな物。ひょうしをかわいくしてほしい。

- おもしろくしてください。絵とかいれて。
- なるべくよごれないようにしてほしい。
- ぜひ作ってください。そして、写真はるスペースがほしい。
- 3ページぐらいにしたらいいと思います。
- できるだけ、分かりやすく、カワイイ色のノートが、私はすごくほしいです。くわしく、命にやくにたつ事を、書いて下さい。
- ながもちするようにつくってください。
- 私は見たことがないのでよく分からないけど、じょうぶで長もちするように水をはじくようにカバーをつけたりしてくれたらいいと思います。
- 本みたいになっていて、知りたい情報を書いているのがいいです。
- びん線があるといい。カバーがあるといい。
- 大人になっても使えそうなので水にぬれても強い物にさせていただけるとうれしいです。
- かきやすい手帳。
- 自分がおはかに入っても丈夫なもの。
- あまり手帳が大きかったら、もち運びが不べんだと思う。
- その時の写真があるといいなと思った。
- みんなのためにやくだてるようなものをつくって下さい。
- 「健康手帳」はどっちでもいいです。長持ちしてほしい。
- ながもちしてほしいし、読みやすくて、写真がはれる手帳にしたいです。

#### ④その他の記述

- 健康手帳って作られるんですか？
- 健康手帳はいつから自分で持てるんですか。
- もし、健康手帳を落としたり、紛失したりしたら、どうなりますか。
- 質問ですが、健康手帳って何ですか？
- 「健康手帳」はなくしたらまたもらえるんですか？色は決まっていますか？
- 健康手帳ってそんなに大切な物なんてしらなかったのでもんきょうになりました。
- 1年～六年まで健康手帳をもらえるのでよかったです！
- 体力測定で、体力がつづくのをしたらいいと思います。
- 母子健康手帳がいつわたしてもらっているのかがわからなかった。
- 長もちするんですか。
- だれにも見られないような手帳にしてほしい。
- だれにもみられないようになっている手帳。
- 見られないようにアイデアを出してほしい。
- とくどき自分で見たくなるようなものがあるといい。
- パスワードを入力すると開けるようなものがあるといい。

## 【大阪中学生自由記述】

大阪中学生の自由記述に関しては小学生の場合と同様に、

①健康手帳の必要性(あえて必要か必要でないかを言及しているもの)について、  
②健康手帳の内容について、③健康手帳のつくりについて、④その他の記述  
の4つに大きく分類し、意見の整理を行った。

まず、健康手帳の必要性に関しては、必要だという意見と、必要でないという意見が半々で、全般的に小学生より関心の度合いは低く「なくても困らないが、あったらそれなりに便利だ」というのが平均的な意見のようである。しかし、必要と考える生徒においては、「自分の体を自分で管理するため」「健康が大事だから」「自分のことがわかる」「将来に役立つ」という積極的な意見もみられる。

次に、健康手帳の内容についてみると、年齢と身長・体重の平均、自分の健康状態や体のことがわかるもの、事故防止や応急手当、スポーツのこと、アンケートの項目内容、体脂肪、生理の周期とか排卵予定日などに関する記述がみられるほか、自分のことを分かりやすく書き込みたいという希望もある。

健康手帳のつくり・装丁に関しては、大きさは持ち運びに便利な手帳くらいのサイズを望む意見が多く、汚れにくく水に強いものという点で小学生と共通している。そして、使いやすくややこしくないもの、読みやすく見やすいものという基本的な意見から、表紙をかわいくする、男女を別にする、写真を入れられるようにするなどの意見もある。

その他の記述の中では、生徒手帳と一緒にしたらどうか、身分証明書にもなるように、健康以外のことも色々書く総合的なノートに、国民一人ひとりに必ずもらえるように、健康手帳は成人するまで親が保管すべきなど、多様な考えが見受けられた。

### ①健康手帳の必要性について

- あったらあつたで役に立つけど無かったら無かったで使わない。
- そんなものはつくらなくていいと思う。
- 今は、いそがしい人がたくさんいるから健康手帳なんかいらないうと思う。
- もし、もらったらきれいにつかいたい。すてないですつともっとく。
- いらん。
- 健康手帳はいらない。
- たぶんみんないらんと思ってると思う。
- 健康手帳があつたらけっこう便利やから作って下さい。
- いいと思う。
- 作ってもいいと思います。健康手帳。
- べつにいいりません。
- いちおう持ってみたい。
- あつた方がいいと思うけど、自分もつとなくしそうだ！
- やるのはめんどくさいけどやついたらなんかの役にたつかもしれない。
- 別に、あつたらあつたでべんりだし、なかつたらなかつたでこまることもないと思う。
- 健康手帳をはやく作ってください。
- 健康手帳はいると思う！！将来的的に。

- 健康手帳は、自分の体を自分でかんだりするためにあった方がいいと思います。
- 健康が一番大事やから、できるだけそうゆうのをもったほうがいいと思う！！
- 健康手帳は別にいらんと思う。
- 自分の昔を知れていい事だと思います。
- けっこうべ便利かもね。
- 別になくてもいい。
- べつにいらん
- そんなんいらん。
- はっきりゆってめんどい。別につくってもいいけど。
- 作ってもいいですよ。
- あまり、必要ないと思います。資源のムダ。そんなコトに使うんだったら、そのお金をアフガンとか食料不足で困っている人にあげた方がいいと思います。
- ほしい人だけほしいよね！
- べつにいらん。
- 特別欲しいというわけでもないけど、あったら楽しいと思う。
- 別にいらんと思う。
- 自分の身を守るために重要です。
- あった方が役だつ。
- そんなんいらんと思う。
- あってもいいと思うし、別になくても困らない。
- 健康手帳なんかいらん。すぐなくすから…
- 健康手帳があつたら、何かと便利だと思う。
- あつたら自分に役立つし、自分の事がちゃんとわかるから…。
- あんまり作ってほしくないと思う。
- 最初とか、書き込むのは、めんどくさいけど、将来とか参考になるかもしれんから、あったほうがいいかもしれない。
- 健康手帳は自分について、よく知れる物の1つだから必要だと思う。親なら書くべきと思う。
- 大きくなっても、小さかったころのことを思い出せるからいいと思う。

## ②健康手帳の内容について

- 自分と同じ年齢の人の男女の身長・体重の平均みたいなのが書いてあつたらいいと思う。
- 生理の周期とか排卵予定日などが分かるのがほしい。体脂肪が分かる公式がほしい。カレンダーをつけてほしい。平均の身長や体重のグラフもほしい。あとシールも。よろしくお願いします。
- できるだけたくさん活用するものを入れてほしい！
- 絶対事故防止や応急手当はあつてほしい。だって、いつも持ち歩いていたら何かあつても便利だから…。そのためにも健康手帳の大きさは小さくしてほしい。
- アンケートに記入したみたいなのが入ってたらうれしいです。
- 健康などをどうすればよくなるかなどをわかりやすくかいた手帳にしてほしい。
- 私は、特に身長・体重・スポーツ関係がきになるから、それについては書いてほしい！！

- いろんな体のことがわかるものもいい。いろいろと書きこめるものもいい。
- 「健康手帳」にはいろいろなことがかいてありますが、スポーツのこととかかいていいのですか？
- 健康手帳の内容がわかりやすく説明してあると、便利だと思う
- 小さい時の身長や体重などの記録がわかるのだったらあった方がイイと思う。
- 今まで、自分の健康状態って、あんまり知らなかった。でも、この「健康手帳」があれば、今、自分の体が、どういう状態かわかるから、とても便利だと思います。
- いつ、けがや病気になったとかわかるから。だからといって、母子健康手帳をなくさないでほしい。やっぱり、母子健康手帳は、いるべき！！
- 赤ちゃんとお母さんのことが書けるからぜひもちたい。
- 持つのはちょっとめんどうだけど、大人になって、自分の子供のころの成長とかが分かるから、「健康手帳」があった方がいいと思うから、絶対作って欲しい！！
- あまりもったことがないのですが、あると役にたつと思うし自分のことを分かりやすくかきこみたい。
- 私は作った方がいいと思います。管理するのはめんどうだけど、自分の体の事などが知れるから。
- もっているのは面倒だがあったほうが自分の体のことがわかるのでいいとおもいます。
- グラフや表とかには、平均をつけてほしいです。
- こういう時はこうするとか…。あったらいいと思う。
- 見やすく分かりやすく正確に。
- あるといつどんなことがあったかわかる。
- 自分の母子手帳を見てみると、こんな時にこんなことをしたのかが、わかっていいと思うなつかしく思える。
- もし作ったら、自分の健康状態などがわかるから作った方がいいと思う。
- 自分の体の事をくわしくかいてたらいいかも。

### ③健康手帳のつくりについて

- 健康手帳の表紙、カワイイのにして下さい！！
- かわいくてはではでなやつがいいです。あとピンクがいい。
- かわいいやつ。キャラとかつくらへんでよい。
- 生徒手帳ぐらいの大きさがいい。表紙はラメラメのとうめいの布(ビニール)の中に、好きな布を入れられるやつがいい。
- 健康手帳を作るとしたら小さい(けいたいできる)サイズがいいです。
- 好きな写真とかを自由に入れられるようにしてほしい。
- なるべく生徒手帳ぐらいの大きさがイイ。手もちできるぐらい。
- うすくて小さいのがイイ。
- 手帳が小さすぎると見にくい。
- どうせ作るなら、本格的で見る気がわいてくるような物がいい。
- ノートの半分ぐらいのサイズで無印良品のノートのような感じで作ってください。
- 大きかったらジャマだから、小さめがいい。
- 水にとけない紙がいい。
- 洗たく機に入れてもよごれたりとけないようにしたい。ページ数は20ページぐらい。あんまりよごれたりしない。水にぬれてもくしゃくしゃにならない紙がいい。生徒手帳ぐらいの大きさにしてほしい。

- 小さいカラフル(チェック)のやつがほしい。
- 小さくてもっていてもおもくなくてバッグやリュックやポケットに入れてもかさばらないぐらいのコンパクトなのがいい。
- できるだけ自分のプライバシーだから自分がいつでももちあるいていける小さい手帳サイズがいいです。(ノートの大きさ)
- 使いやすくしてほしい。(書いてある字が見やすい。など)
- もし「健康手帳」をつくるのならば、持ち運びに便利(あつみがうすくて小さい)なもので、使いやすく、書きこみやすいものにしてほしい。
- 手帳の中をカラーにしてほしい。
- もしも作るなら見やすくして欲しい。
- 大きな字で読みやすいやつ。
- わかりやすく、ダサくないやつ。
- 作る時はなるべく小さめに使いやすく見やすくして欲しい。
- 表紙がスヌーピーとかパワーパフガールズとかのがいい。
- 使いやすいようにカワイイやつがいい!!キャラクターのやつとか
- 自分でいつでも見れるように胸ポケットに入るぐらいの大きさがいい。
- めんどくさけど、いつかやくにたつと思うから。小さいほうが、もちはこびにべんり。
- あんまり大きいのもいやだけど、小さすぎるのもいやだけど、大きいのと小さいのだったら、小さいほうがいいと思う。
- ふつうのノートの4分の1。
- 字が大きい方が読みやすい。
- 男女おなじものじゃなく、男と女わけたほうがいいと思う。
- もし、健康手帳というものを作るなら、みんなが使いやすくややこしくないものにしてほしいです。めんどくさすぎるのも…。
- 健康手帳を作るなら、ワクワクできるようなんにしてほしい。

#### ④その他の記述

- あまり、くわしく知らない…。だから、よくわからない。
- 健康手帳ってなんだ？
- 今はインフルエンザがはやっているから、学校から帰ったらうがいをする。
- もしなくしたらどうするんですか。
- だれが書くんですか？
- 健康手帳を保かんするとき親が持っていたらいいと思いませんか？(成人するまで)
- 国民1人にかならずもらえるようにしてほしい。
- ガンバレ。
- 応援してます。
- とくになし。
- 健康だけでなくいろんな事を書く「総合ノート」をつくって下さい。よろしく。
- すごいと思う！
- がんばって下さい。

- ㊦ あんまりそんなんはわからない。
- ㊦ もらえるならもらいたい。
- ㊦ 健康手帳がそんなに大事なものだとは気づきませんでした。
- ㊦ 健康第1勉強第2。
- ㊦ 健康手帳の中には何が、かいてあるのか？
- ㊦ もうすこしわかりやすい健康手帳にしてほしい。
- ㊦ 生徒手帳と一緒にしたらいいと思う。
- ㊦ みんながもっててあたりまえになるような本にしてください。
- ㊦ ちょっとでも自分のことをいっぱい知っていけばいいとおもう。
- ㊦ 自分のができるなら一度書いてみたい。
- ㊦ 母子健康手帳は自分の生まれた時のことをする大切なものだと思う。
- ㊦ これからの自分の健康状態がわかると思います。
- ㊦ 身分証明書にもなるように。

### 【大阪高校生自由記述】

高校生に関しては、小学生、中学生に比較して健康手帳への関心が一段と低い様子で、自由記述も極めて少なかった。したがって、必要性の面からも、内容やつくりに関しても特に参考となる意見はみられない。

- ㊦ あったらあったで便利だと思う。
- ㊦ 初心に戻る。
- ㊦ 手帳を作る場合、自分で書くのではなくて、医者に書いてもらうとかした方が確実に良いと思うし、データにするという手もあるのではないかと思う。
- ㊦ 何も分かりません。
- ㊦ 別になくてもいいです。
- ㊦ まあ、がんばれ。
- ㊦ 自分の記録とかが書きこめるならあった方がいと思う。
- ㊦ スポーツなどのポテンシャルを知るためにとてもいいと思います。自分のパーソナリティなことをノウしておく必要があります。はい。
- ㊦ 母子手帳みたいなガラにしてほしくない。
- ㊦ あんまり、どういものかよく分からへん。
- ㊦ 年寄りになってからはしいかもしれない。



## D. 考 察

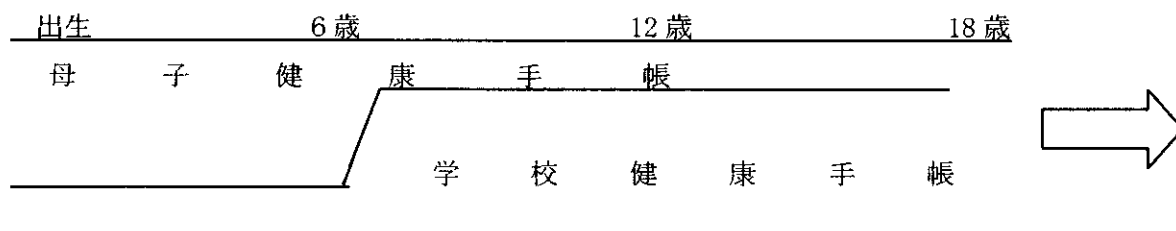
茨城県農村部および大阪各地の小学生(5年生以上)、中学生、高校生約4000名に母子健康手帳と学校健康手帳についてアンケート調査を行い、茨城地区では児童生徒の保護者827名にも母子健康手帳の使用状況や、母子健康手帳と学校健康手帳の係わりについて意見を訊いたが、これらの結果より以下のことが考察され、今後の方向性が示された。

### ①母子健康手帳はきちんと保管され、子育てにもある程度役に立った。母子健康手帳の学童期以降の使用延長は、多くの保護者が必要と認めている

保護者の99%は母子健康手帳をきちんと保管しており、7割以上が子育てに役立ったと答えていた。役立たなかったとの答えは0.2%に過ぎず、母子健康手帳が子育てのため果たしている役割は大きいといえる。また、子どもの就学後も予防接種や発育の記録が必要になったと答えており、今後も母子健康手帳は大切に保管されると思われるが、子どもが留学するときなども予防接種の記録が必要になることを知らない保護者が大部分であることや、子どもの健康情報が学年が上がるにつれて家庭で把握できなくなっている状況を考慮すると、就学以後も子どもの発育や健康記録が一貫して残せる手帳の必要性は高いと考えられる。

### ②健康記録を残す手帳は保護者の要望が高く、児童生徒もある程度必要としている。保護者は母子健康手帳、子どもは学校健康手帳を持ち、発育や健康記録を出生から成人まで双方に記載する2本立てで検討してはどうか。

保護者に対して行ったアンケートで、一貫した成長過程がわかる手帳は85%と大部分の保護者が要望しており、また児童性も「あった方がいい」とする回答が小学生で50%以上を占めた。このことから、保護者が母子健康手帳、子どもが学校健康手帳を持ち、双方で健康記録を管理できるようにすることが望ましいと考えられる。



### ③児童生徒の意識の違いは地域間ではなく、性別・学年間によるものが大きい。小学生は自分のからだや健康に関して関心が高い。

本調査では茨城県及び大阪府で調査を行ったが、母子健康手帳や学校健康手帳に関する知識や意識は、地域による差よりも性別と小中高で大きな差が見られた。

性別による差では、とくに健康管理や意識の面でみられた。男子は「健康手帳の中身に関心を持ったもの」という設問項目に対し関心を示さない生徒が多く存在したのに対して、女子は様々な項目に高い関心を抱いていること、また「手帳に載せることであったら使いたいもの」でも、女子は身体の発達記録や健

康診断の結果など自分の健康状態に興味を強く示しているのに対し、男子は体力テストの結果やスポーツ競技の記録など自分の身体機能に強い興味を抱いていた。

女子は今後の人生における妊娠・出産を意識しているためか、母子健康手帳を親からもらいたいという質問に対しても、男子の倍近くがもらいたいと答えている。

また健康について知りたい情報では、身体能力に関することは男子の要望が高く、健康状態に関するところは女子の要望が高いという結果で、総じて性差が表れている。とくにストレスに関しては、小中高通して女子の方が健康情報として「知りたい」と回答しており、日常生活の上で女子の方がストレスをためやすい傾向にあるか、あるいは関心が高いのではないかと考えられた。

小中高による差では、小学生が様々な項目に対して関心を示しているのに対して、中学生・高校生になるにつれて関心が低くなっている。また「手帳を自分で管理できるか」という設問で、中高生になると「面倒くさい」が多く選択されたことからみても、年齢が高くなるにつれて自分の健康にはあまり関心を持たなくなる傾向にあるのか、学校において健康教育に割く時間が少なくなっているのではないかと推察される。

この結果から、小学生時代に自分のからだに関する教育を行うことや健康の大切さを自覚させることの重要性が示唆された。

#### ④学校健康手帳は自分の発育記録や健康状態を記載するばかりでなく、健康情報を盛り込んだ手帳が要とされている。

今後どのような手帳が望まれるかについて、「手帳に載せることであったら使いたいと思うもの」「健康について知りたい情報」などの設問項目で明らかになったように、自分の健康状態だけでなく、健康情報を知りたいとする回答が小学生では半数、中高生でも3人に1人みられた。

「健康について知りたいこと」では、ほぼ全項目で年代が高くなるにつれ知りたいとする割合が減少しているが、例外的に「肥満や痩せ」については中高生の方が小学生よりも関心が高く、昨今のダイエットブームの風潮を反映したものとなっていた。

#### ⑤現段階では、学校において健康手帳はあまり使われていない。

現在、学校での健康診断結果などを記入する手帳(あるいはカード)を使っているかという質問に対し、小学生では87%が使っていると答えたのに対して、中学生で35%、高校生では12%にまで落ち込んでいる。また逆に「以前は使っていたが現在は使っていない」は中高生とも3割程度おり、小学校から中学校、中学校から高校へ進む段階で、身体計測や健康診断の結果などを記入する手帳があまり引き継がれていないことを示している。

#### ⑥母子健康手帳・学校健康手帳の個人情報の取扱いは、十分配慮する必要がある

母子健康手帳の使用延長について、多くの親が賛成しているが、その中で「妊娠中などの親の記録は切り離して子どもの成長だけを記載する」という、親に関する情報を切り離したいという回答が多くみられた。このことから、健康手帳の作成に関しては、親のプライバシーに十分配慮する必要がある。一方、児童生徒は、手帳ができた場合には「自分のものだから当然なくさないようにする」「できるだけ努力したい」との回答が過半数を超えていた。しかし、重要な個人情報であることから、紛失や学校での取扱いに関して、今後検討を深める必要がある。

## E. 結 論

母子健康手帳はよく保管され、子育てにも役立ち、就学後も必要性が高く、活用が進んでいる実態が把握されたが、さらなる活用を望む声が多かった。とくに子どもの健康情報は一貫して記録する必要があるとして、6歳までの使用に限られている現在の母子健康手帳を延長し、学童期に入っても継続して記録が残せるようにすべきとの意見が多数を占めた。しかし、それは子どもの学校健康手帳とは別物と考え、少なくとも成人するまでは保護者自身が保管することを望んでいる。また、児童生徒も自分の健康手帳を持ちたいという希望があり、そこには健康情報も盛り込むことが望まれていた。

今回の調査から、保護者・児童生徒とも健康手帳に対しては様々な要望のあることが判明したため、今後は内容や活用方法の検討に加え、表紙や手帳のサイズなども細かく検討し、役に立つ母子健康手帳を考えていく。また同時に、学校健康手帳についても母子健康手帳と切り離して考えるのではなく、親と子のどちらにも有効活用されるよう併せて考えていく必要がある。

## 謝 辞

本研究を行うにあたり、ご多忙中アンケート調査にご協力頂いた各学校の校長先生はじめ諸先生方、ご回答下さった児童生徒および保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

とくに、茨城県大宮町総合保健福祉センターの助川保男センター長、金子さない保健師、大阪府枚方市立西尾小学校の大川尚子教諭に多大なご尽力を頂きましたので、記して御礼申し上げます。

平成 15 年 3 月 24 日

研究班を代表して 小林 正子

## 資料

# 新たな母子健康手帳活用の方向性として：小牧市の実践例より

小林 正子（国立保健医療科学院 生涯保健部行動科学室長）

愛知県小牧市では、独自の母子健康手帳の作成に取り組み、地域で親子を支援するための有効な手段として活用している。この取り組みについて、小牧市保健センターの小林敦子所長から説明を受け、以下に要点をまとめた。

小牧市では、平成9年に母子保健事業の実施主体が市町村に移ったことを契機に「母子保健推進協議会」を設け、小牧市の親子を行政と地域で支え育てていくために必要な事項を検討した。このメンバーは以下から成る。

小児科医、小児歯科医、指導主事、養護教諭、指導保育士、家庭児童相談員、児童センター館長、臨床心理士、主任児童委員、助産師、保健所地域保健課長、生涯学習課長、児童課長、保健センター所長

そこでまず親と子に関する現状と問題点を分析し、その問題点を改善するための要検討事項として以下のことが挙げられた。

- ・ 母親の力になる母子健康手帳の検討
- ・ 母親に関係ある相談窓口の整理
- ・ 母親の仲間づくり
- ・ 子育てを支えることができる地域づくり
- ・ 父親・母親の役割の教育
- ・ 未就園児など、どこにも把握されず就学を迎える要援助母子への働きかけをどうするか
- ・ 学校、保育、保健の各行政機関の有機的連携

そして、これらの要検討事項のうち、母親の力になる母子健康手帳の検討が最重要課題となった。そこで、上記の「母子保健推進協議会」の下に保健師2名、保育士1名、養護教諭1名からなる「母子健康手帳作成部会」を発足させ、これまで子どもが6歳になるまでしか使用されなかった母子健康手帳を中学卒業まで使えるものにするという基本方針で、具体的な内容の検討に取り組んだ。

母子健康手帳に期待されている役割としては、主に以下の3つが考えられた。

- ① 父母の育児の力になること（困ったときにどうしたらいいか、その年齢の子どもにどう接したらいいかなど）
- ② 子どもへのメッセージの手段（父母の子どもへの愛情と、子どもの成長の記録）として
- ③ 親子を取りまく地域のつながり（保健師、保育士、養護教諭の連携）を形成する媒体として

①に関しては、既存の母子手帳においても、育児上の専門的な知識やアドバイスが記載されていてとくに新しいことではないが、父親の育児がどうあるべきかが伝わらないという問題がある。

②を実現するためには、母子健康手帳の配布の仕方から改める必要があると感じられ、市の窓口で機械的に配布するのではなく、妊婦が保健センターに出向き、そこで保健師が個別に妊婦と面接し、母子健康手帳の役割や活用について説明したうえで手渡すことになった。

母子健康手帳には、胎児の成長や母胎の変化の記録と共に、両親よりおなかの子どもへのメッセージを記録する欄を設けた。ここから育児が始められる。子どもが生まれてからは、出産の感動の気持ちと命名への思いが記され、乳幼児期にかけては、それぞれの成長の時期にあわせて子どものイメージができるように父母からのメッセージが記される。病気の記録や予防接種の記録と共に、子どもの出産・育児をめぐる親の気持ちが母子手帳に記録されて、将来「最高の宝物」として子どもへプレゼントされること

になる。

こうした流れの中で、子どもの発育や親自身の気持ちの記録を振り返りながら、子どもと共に親も育つことが求められる。また、子どもはいつか親になる際に、母子手帳の記録を見返しながら、父親・母親の気持ちを理解し、育児に関する様々な気づきの手段として活用していくことができる。

③の親子を取りまく地域のつながりという点では、実際、多くの自治体では、母子保健と学校保健の間の連携がないために一貫した子育ての支援体制がとれず、少子化対策でも大きな課題となっている。この点で、小牧市の保健師、保育士、養護教諭による「母子健康手帳作成部会」は最初から障害となる垣根を取り払っている。

また、保健師、保育士、養護教諭の連携による独自の母子健康手帳の作成は、学校の思春期教育との連携ができたこと、歯科検診の集計結果が幼児から中学校まで統一できたこと、そして思春期までの母子保健計画を考えることができたという展開を生み出すことにもなった。思春期までの母子保健計画を学校とのつながりで策定したことは極めて有意義であり、このような自治体は全国的に見ても数少ないと言えよう。小中学校の親子関係、家庭の雰囲気、朝食などの食事の状況、思春期における身体とこころの関係などを養護教諭の協力で把握し、策定に反映できたことは大いに評価すべきである。

小牧市が独自に作成した母子健康手帳を交付し、実際に活用してみたの反応としては、妊娠中から保健師とつながりを深め相談等を受けるようになった、上の子の場合を改めて思い返して今後の育児のしかたへの参考にすることができた、この母子健康手帳で子どもを生み育ててみたい、などの利用者の反応がみられたほか、保健師の側でも支援の必要な母に妊娠中から係わることができたなど有意義なものが多い。

以上が小牧市における新たな母子健康手帳作成とその効果についての先行例であるが、この実践を通してさらに改善すべき点が幾つか見いだされている。以下に列挙するが、本研究にお

いても改めて検討し、参考にすべきと考える。

- 1) 手帳の名称について  
「母子」だけではなく「父子」の関係も含めるべきであり、「親子健康手帳」にしてはどうかということ（小牧市では平成15年度から親子健康手帳-小牧市母子健康手帳-に変更）
- 2) 各年齢にあわせて「生」と「性」について伝えなければならないことを記入するという点。これは幼児からの延長である思春期を見据えて、人間として基本的なもの、命の大切さを伝えるということである。
- 3) 各年齢にあわせて生活体験を入れていくこと
- 4) 各年齢ごとに生活リズムの必要性について記入すること（親の生活リズムが子どもの生活リズムを崩している）
- 5) 各年齢ごとに親子で楽しめるものを記入すること
- 6) 父母の意見を聞き取り入れること（アンケート等による）
- 7) 第2子以降の子どもを持つ父母へのアドバイスを入れること
- 8) 各年齢の頁ごとに「困ったときには悩まずすぐ電話を」の言葉を入れること
- 9) 母乳育児について1ヶ月、3～4ヶ月のところにも記載すること
- 10) 離乳食の基本的な考えを伝えること（ベビーフードなど余り特別なイメージを与えない。むしろそうしたイメージを払拭していく必要がある）
- 11) 働く母親のためのアドバイスを入れること
- 12) 父親のためのアドバイスの部分をもう少し多くすること
- 13) 幼児期における母親同士のつながりの必要性を伝えること

小牧市においては、以上の内容を重要な検討事項として、今後の母子健康手帳のあり方を考えていくと共に、近所の子育て経験者などが誰か一人、地域でその子どもを大事に見守り第2の母親的な役割を果たす人をつくる独自の子育てシステムについても検討中である。

## 本校における健康管理・健康教育の現状と課題

さいたま市立桜木小学校養護教諭

齋藤 久美

本校では、児童が心身の健康の価値を認識し、自ら考え、健康な生活を実践しようとする資質や能力を育てることは「生きる力」の育成につながると考え、学校保健全体計画及び学校保健安全年間計画に基づき健康管理の徹底を図るとともに、健康教育の推進に努めている。

以下にその概要について述べる。

### 1 健康管理

学校医等関係者と連携し、健康診断や健康観察の適切な実施及び事後処置の徹底に努め、児童の健康状態を的確に把握するとともに、個々の健康課題に基づき個別保健指導や健康相談、養護教諭の行う健康相談活動を実施するなど、個に応じた健康管理に努めている。

#### (1) 身体計測の定期的な実施と健康管理への活用

健康管理をすすめる上で健康情報の収集は最も重要であり、中でも身体計測値は個人の成長・発育をとらえる貴重なデータである。本校では身体計測を等間隔で定期的実施し、病的な低身長等成長障害が疑われる児童や、虐待・摂食障害等の心身の健康課題の早期発見、肥満傾向児への保健指導等、個々の児童の健康管理に活用している。

- ①身長・体重測定を年5回（3ヶ月毎の4月・7月・10月・1月と夏休み後の9月）実施。
- ②測定値はパソコンに入力し、低身長が疑われる児童、身長・体重の年間増加量が少ない児童、過体重・るいそう傾向児童、健康診断・健康観察の結果より必要と思われる児童等については身体計測値をグラフ化している。更に、他の健康情報とともに記録に残し、6年間継続して管理している。
- ③測定結果は、6年間使用する個人カード「成長の記録」で本人及び家庭に通知している。  
※「成長の記録」には、身体計測値、健康診断結果の他、発育の評価や成長障害の早期発見に関するアドバイス項目と「パーセントイル成長曲線」記入用のグラフを掲載し、家庭でグラフを記入しながら、発育の評価ができるように工夫している。更に保健学

習、保健指導、総合的な学習の時間の教材とするなど、個々の児童に健康に成長していることのすばらしさを認識させる資料として活用している。

- ④ ②③により低身長や他の成長障害が疑われたり、肥満、摂食障害等心身の健康課題の疑いのある児童については健康相談を行い、必要に応じて専門機関を紹介している。身体計測値と他の健康情報を総合して、継続的に管理することにより、重要な疾患や健康課題の早期発見につながっている。

#### (2) 個々の健康課題に応じた健康管理

- ①肥満傾向の児童とその保護者を中心に、成長曲線の記入や栄養指導、啓発資料の作成等、生活習慣病予防の為の個別保健指導を実践している。
- ②不登校や心の健康課題をもつ児童については、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした心と体の健康相談活動の充実と学校教育相談体制の強化に努め、地域の専門機関との連携を図りつつ組織的な支援に努めている。
- ③全教職員での「児童理解の研修」を定期的実施し、児童の心身両面を含む健康状況や、学校生活上配慮を要する児童への対応について全職員で共通理解を図っている。

#### (3) 歯科保健管理

- ①年2回の歯科健康診断を実施し、その結果を全児童に歯・口の健康状態を個別カードで通知、自分の課題にあった歯科保健行動の習慣化に活用している。
- ②歯科衛生士による個別の歯肉炎検査及び予防指導を5・6年の児童に、年2回の実施している。更に毎回口腔写真を撮影し、児童が個

人ファイルし、その過程で歯と口腔の健康に関する自らの課題を発見するとともに、課題にあった歯みがき方法の習得に努め、歯肉炎予防・健全歯保持等、口腔の健康保持増進への意欲を高めている。

- (4) 健康管理を実施する過程で明らかになった健康課題や、健康情報を、保健教育や食に関する指導、総合的な学習の時間等の教材とするなど、健康教育の実践に生かしている。

## 2 健康教育

心身の健康の価値を認識し、健康に関する課題発見・解決能力を育む健康教育を、家庭や地域と連携し、全教育活動を通じて意図的・計画的に実践している。

- (1) 性・エイズ教育、喫煙飲酒・薬物乱用防止教育等の実践を通し、自他の生命を尊重し、心豊かにたくましく、よりよく生きようとする児童の育成に努めている。
- (2) 総合的な学習の時間においては、本校の伝統である全校をあげての健康教育実践を踏まえ、「健康に関する指導」を大きな柱として設定し、生命を見つめる学習を通して、保健教育や他教科・領域の学習内容との関連を図りながら、児童の興味関心に基づいた学習活動を深めている。
- (3) 児童が生涯にわたって健康な生活を送る手だての一つとして、歯科保健行動を児童のライフスタイルに位置づけることを目標に、「歯と口の健康教育年間指導計画」及び「指導内容系統表」に基づき、全教育活動に位置づけて歯科保健活動を展開している。学級担任と養護教諭のTTによる授業実践、「学年別歯みがきの目あて」に沿った歯みがき指導、きめ細かい歯科保健管理等の 実践により健全歯の保持が進み、児童1人当たりの永久歯う歯数が0.34本になる等、大きな成果をあげている。

## 3 学校保健委員会の活性化

学校保健活動に関わる人々の共通理解を図り、目的に向かって有機的な連携を行うため「すこ

やかフォーラム（学校保健委員会）」の活性化を図り、家庭・地域ぐるみで健康的なライフスタイルの確立を目指している。

- (1) 児童、保護者、教師の代表、学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び地域の住民や幼稚園及び中学校の保護者も参加し、年3回定期的に開催し、生涯にわたる健康の保持増進のためのライフスタイル確立を地域に広げている。
- (2) 児童の視点による調査報告や問題提起を毎回行うとともに、協議された内容を各出席者から全職員・保護者・児童に伝達し、健康教育・健康管理の実践に生かしている。

## 4 今後の課題

小学校における心身の健康管理及び健康教育は、成長・発達の著しい時期であるという特性はもちろん、生涯にわたる健康な生活の基礎を培う意味で大変重要である。今後は、以下のような実践を深めることにより、児童自らが健康の価値を認識し、健康的なライフスタイルを実践する態度を育みたい。

- (1) 個人の健康に関する情報を適切に管理することにより、疾病の早期発見・治療に活用していきたい。現時点では入学前の健康情報を学校での健康管理に生かすことは困難であるが、学校現場における健康課題の中には、入学前の健康情報があれば、早期に解決に向かう事例も多い。プライバシーの保護等の課題はあるが、小学校の時点のみでなく、乳幼児期から成人するまで一貫した健康情報管理の方法を探りたい。
- (2) 学校の特色で生かすと共に、保健室での健康管理から得られた課題を保健教育の授業に生かしたり、総合的な学習の時間に関わるなど、養護教諭の専門性を生かした授業実践を積極的に深めたい。
- (3) 地域の医療機関や保健所等、健康教育に関する地域の教育力も積極的に利用し、地域社会の中で、発達段階に応じた健康教育を系統的に行いたい。

# 本校における健康管理・健康教育の現状と課題

川口市立戸塚中学校養護教諭 村木 久美江

本校では、健康を、知的・身体的・心情的・社会的の4つの側面からとらえ、それぞれの領域の教育活動を組織的に推進することをおして、「心身共に健康な子ども」を育てるよう努めている。

本校の特色の一つは、9年間連続で部活動優秀校として川口市より表彰されていることである。生徒は運動部と文化部の活動面で活発な取り組みを展開し、その成果をあげている。学校保健活動も継続して優良校表彰をされているが、以下、その活動の概要と課題を報告する。

## 1 健康管理

健康管理面で中核となるのは、定期健康診断と健康観察、そして健康調査である。

### (1) 定期健康診断

学校における健康診断は、特別活動の健康安全・体育的行事として重要な教育活動である。中学校においては企画運営面の日程を調整することから、学校医等の密接な連絡はもとより、部活動指導者、学年主任との連携を確実に行うことが強く求められるのである。4月から6月末日までには、部活動の「春の大会」や「新人戦」というように、他校との試合が連日開催され、参加する多くの生徒が登校しない状況が生じる。養護教諭は、各部の試合の結果を把握し、勝ち進む部活動生徒の動静をチェックし、健康診断を受けられない生徒が生じないように、企画し実施するよう心がけている。また、3年生の修学旅行、2年生の宿泊自然教室、1年生の校外学習等と、6月末日まで各学年の行事も目白押しであり、合理的で効果的な定期健康診断を実施し、事後措置にあたっている。

また、プライバシー保護の観点から、内科検診・歯科健診等のもとより、測定・記録面でも個別検査の実施態勢をとり、結果の通知方法も工夫し、他の生徒に結果が知られることがないよう努めている。

### (2) 健康観察

生徒の健康実態の把握で、日常の健康観察を重視している。始業前の朝の健康観察と、毎授

業ごとの健康観察の徹底は、健康管理面と学習面でも大きな効果が期待できる。特に、朝の健康観察は、1時間目の休憩時間までの健康観察簿の提出と、担任のサインの有無を毎日、生徒保健委員がチェックし、昼の校内放送でその結果を広報している。24クラスの大規模校であるが、約900人の生徒の健康状況を毎日、健康観察簿から把握している。

### (3) 健康調査

本校では、必要に応じて健康調査を実施している。たとえば、健康診断時の保健調査・生活実態調査・発育発達に関する状況調査・学校行事前の健康調査・緊急時に関する調査などと、調査票や面接・観察をおして生徒の健康実態を把握している。本年度は、健康診断時の保健調査結果を、継続して保健指導に効果的に活用できるよう、学校医と学校歯科医の先生方と調査票の内容検討を始めている。

## 2 健康教育

健康教育で中核となるのは、保健学習・保健指導であり、総合的な学習の時間や道徳・関連教科も、心身共に健康な生徒の育成面で重要な領域である。

### (1) 保健学習

保健体育科保健分野の学習で、生徒は健康問題に対する科学的認識と実践的能力の基礎を学ぶ。体育科教員に対して、指導資料の提供や指導方法の紹介を積極的に行い、T・Tによる授業を試みている。本校は大規模校であり、一日



の保健室利用者が非常に多く、兼任発令を受けた授業の実施は困難であるが、授業への協力は惜しまないよう心がけている。

## (2) 保健指導

健康生活のための生徒指導（生活指導）として、生徒が身近な健康問題を自分で判断し解決できるような、実践的な能力や態度を育てることを目指している。主に、学校行事や学年行事、学級活動での一斉指導や、個別指導を実施している。薬物乱用防止教室・性教育・喫煙防止教育については、ライフスキル教育の指導方法で学習の成果をあげている。

## 3 組織活動

学校保健委員会を核に、職員保健部・PTA保健部・生徒保健委員会の各部が活発に、しか

も連携をとりながら活動を推進できるよう、連絡調整に工夫している。毎日、部活動練習があるので、会議や活動の時間の確保が難しく、各部の相互のコミュニケーションは、意図的にこまめに図るよう努めている。

## 4 おわりに

生涯保健の観点から、自分の成長を健康の記録と共に歩める、健康手帳の導入は非常に効果的だと考えている。生徒自身の健康の記録である健康診断票は公簿であるので、公文書の管理規則に従わなければならない性格をもち、生徒自身が有効に活用できないからである。生徒が、自他の「健康」を最優先する資質を獲得できるよう今後も努力していく。

# 国分寺高校の健康管理の現状

都立国分寺高等学校養護教諭 土屋 芳子

まず、最初に、本校で行われている健康管理の状況を列挙し、その後、その問題点と今後の課題について私見を述べたいと思う。

## I. 学校で行われている健康管理の実態（健康情報の収集と管理について）

### 1. 入学時

#### ① 入学時に保健調査実施

項目は、プライバシーのことがあり、最近では保護者の判断により、学校に伝えておいた方がよいと判断したものを伝えてもらう形になっている。

具体的には、既往症、アレルギー、BCG接種の時期等

② 入学時の保健調査により必要と思う保護者に入学式後に面接する。

③ 新入生については、クラスごとに保健調査の結果を一覧表にし、管理職、学年団、体育科に配布する。

④ 職員会議で、健康上注意を要する生徒の一覧配布（取り扱い注意）

新入生は詳しく、在校生は特に注意を要する生徒を挙げる。

⑤ その年度の緊急連絡体制一覧に、要注意生徒のかかりつけの病院の電話番号、主治医を記載し、緊急時の対応がスムーズにいくように

する。

- ⑥ 必要に応じて、救急時の対応を消防署等に連絡しておく。

## 2. 定期健康診断

- ① 定期健康診断の前に心臓病調査票を毎年全員に配布記入。

(既往症の部分は、記入もれもみられ、後でこちらが加筆することも多々ある。こちらが把握しているもののみなので、完全ではないと思われる。)

- ② 定期健康診断の結果に基づき、要注意、要受診生徒をリストアップする。
- ③ 定期健康診断の結果を配布し、受診勧告する。
- ④ 心臓、腎臓、結核については、学校で2次、3次検診に引率する。

必要に応じて体育科に連絡をとり、体育を制限してもらう。

- ⑤ その結果、精密検査が必要な場合は、学校医の指示を受け、最寄りの医療機関を紹介しつつ、受診を指示する。
- ⑥ 定期健康診断の結果、注意を要する生徒について、職員会議で報告する。

## 3. 臨時健康診断（合宿前、修学旅行前）

- ① 合宿前検診では、事前に合宿参加者全員に問診票を配布し、学校医が指定した項目に○をつけた生徒を健康診断該当者とする。その時、生徒の自己申告では不十分であるので、健康診断の結果や既往症のリストから漏れがないようにリストアップする。
- ② 合宿参加者全員の一覧表を部活動ごとに作成する。
- ③ 合宿の参加保留の生徒は、基本的に主治医の指示に従う方向で考える。
- ④ 合宿前検診の結果を一覧にして、職員会議で報告する。(部活動ごとの一覧表はその顧問、引率教員にだけ配布する。)
- ⑤ 合宿前には、救急法などの講習会を実施する。
- ⑥ 修学旅行の場合、事前に注意事項をプリント

にして配布。それを用いて、学年で保健指導をしてもらう。

## 4. 日常の観察

- ① 保健室の利用状況
- ② 学校保健健康センターの申請
- ③ 欠席情報（担任によって連絡がまちまち）
- ④ 本人からの相談
- ⑤ 友達からの相談
- ⑥ 教員からの情報、相談（体育科、芸術、家庭科など実技教科が異常を発見しやすい）
- ⑦ 顧問からの情報、相談
- ⑧ 保護者からの相談

## 5. その他

- ① 小学校中学校の健康診断票（結核の生徒がでた場合は重要）
- ② 中学校の先生からの申し送り（学校保健健康センターの申請が主）
- ③ 中学校の先生に確認の連絡（異常時の対応について等）
- ④ 医師、カウンセラー等と連絡をとる。(保護者の了解を得て)

## II. 現在の問題点

- ① 小、中学校の健康診断票は送られてくるが、それに丁寧に目をとおすことはほとんどなく、ただ保管しているだけで健康情報として活用されることはほとんどない。(今まで8年間の勤務の中で必要とした事例は、生徒に結核がでた時、ツ反、BCG接種の記録を確認、色覚、大学入学後の課題調べである。)

このような状況のため、個人の貴重な記録を5年保存後本人に返却されることなく廃棄されるということに疑問を抱き、小学校分は高校卒業時には5年を過ぎているということを理由に、高校卒業時に返却するケースもあると聞いている。誰のものでもない本人の成長発達の記録であるので、本人に活用しても

らう方法を探る必要がある。

- ② パソコンを使用し、いろいろな健康情報をひとつにまとめ生徒の健康管理ができるようになると、その時々学校の行事等で注意を要する生徒をピックアップするときに便利であり、管理しやすいが、そこまでパソコンを活用することができていない。

また、プライバシー保護のことも考えると問題もあり、クリアすべき課題がたくさんある。

- ③ 前にも問題提起（2-①）したが、本人、保護者の健康管理の自覚が乏しい。たとえば、高校1年の時に心電図検査を受け、心室性期外収縮などで、翌年も検診を受けるようにという指示を受けているにもかかわらず、本人も親も忘れていたのか、重要視していないのか、記入漏れがあったり、2次検診に該当したという記憶はあってもどのような内容だったのか記録（記憶）していないケースが毎年2、3人みられる。（本校は、保護者の意識が高いのだがそれでも数人いるので、他の学校はもっとひどい状況と推測できる。）

従って、学校で知り得ている健康診断の結果は、漏れのないように把握し共通理解をしておかなければという思いがある。たとえば、マラソン大会などで突然死などがあつたりすると、学校側はどのような対応をしたのか問われたりするため、神経を使う。

- ④ しかし、学校側に限界あり。保護者が全てを学校側に伝えているわけではないので、その点を念頭に置いて対処している。入学時の保健調査に「保護者が必要であると判断した場合は、学校側へ伝えてください。」とプライバシーを考慮した記載をしているが、保護者の判断で学校側に伝えず、そのことで生徒への

配慮を欠いたとしても、そのことについて学校側は責任をもてないことを伝えている。（てんかんなど）

### III. 今後の課題（理想）

- ① 日本の場合、海外に比較すると、健康管理が学校まかせという意識が強いように感じる。健康診断も学校で行うため、自分のための健康診断という積極的・主体的な意識が乏しく、やらされているという受け身の姿勢が強いように思われる。ここに大きな問題がある。
- ② 母子健康手帳は、自分と子どもの健康手帳という意識が強い。よって、この主体的健康管理の意識を継続させる必要がある。学校に入学した時点で、保護者の意識が途切れる（学校まかせ）傾向があるので、家庭（本人）管理にもどす必要あり。
- ③ そのためには、学校での健康診断ではなく、自分が医療機関に行き健康診断を受け、その結果を学校に報告するという形をとるのも一つの方法と考えられる。しかし、これが実現するには、大きな意識改革、組織改革が必要になるため、困難を要すると思われる。（本人が医療機関に行く必要があるため、面倒と判断し、放置するケースが増える。医師の労力が増す。地域の医師会との協力必要。ホームドクターという感覚があれば定着しやすい。）また、学校側は、全部の生徒の報告を受けとるまでに時間を要する。つまり、今の学校まかせの健康診断は、短時間で、少ない労力で集団の健康を管理できる（学校側にとって）という利点があるが、そのため自分のための健康診断という意識が薄く、主体的に管理につながらないという欠点がある。

# 保健室からみた生徒の健康状態と健康管理について

都立松原高等学校養護教諭 星井道代

近年、様々な分野から生徒の幼さが指摘されているが、それが健康管理にも反映されていると感じている。生徒が自分自身のことを正しく知らない、また、どこがどのように具合が悪いかを表現できないのである。心身の幼さばかりではなく、幼稚園・小学校・中学校と正しい健康管理の方法を身につけられずに、高校生になっている生徒もかなりの数いると予測され、問題視されている。

## 1) 多様な価値観と生徒や保健室の現状について

具体的な健康管理の一つの方法として（別紙アンケート結果から）うがいについて聞いた項目からは、物心ついたときから毎日うがいをしているという生徒がいる一方、うがいをしたことがないという生徒もかなりいて、健康管理のとらえ方としては、価値観も含めて様々であると感じた。背景には家庭の教育もあると思われるが、何を生徒が最優先にしているかということも問題と予測される。

本校は、在籍約 600 名の中で、具合が悪い・ケガをしたといった来室者が年間約 1200 名であるのに、ただ何となくおしゃべりをしたい相談したい等を含めると、日々の来室者が年間約 6000 名を越える。以前養護教諭は赤チン先生と呼ばれ、応急処置にかなりの比重をかけて執務をしていたように思われるが、今はよろず相談所といった様相を呈している。進路の悩みやキャリアガイダンスから、個々の健康問題・家庭のこと、友人のこと等多岐にわたる。少し前までは、受容・共感の手法で解決できていたものも、最近はいくつもの具体例を提案して欲しいと生徒の方が望むほど、主体性が薄れていると実感する。最終的に決定するのは、本人であるのに…と将来に向けて不安である。

最近のトイレの使い方も本来の使い方ではないことが学校の職員から指摘されている。トイレを個室の空間として利用するのである。散髪屋さん代わりに使用したり、着替えをトイレで行い、トイレの床になんと洋服をそのままおけ

るという清潔感・不潔感の感覚の麻痺である。欠如している部分もあるのではないかと考えてしまうが、ある特定の高校だけに限ったことではないようである。トイレでジュースを飲んだり食事をしたりするばかりか、もはや更衣室代わりにしているなど驚く状況にある。ジベタリアンという言葉も生まれたが、廊下に円陣を組んで、べたっと座って休憩時間にお菓子を食べたりお弁当を広げているのが現実である。学校にお弁当を持参していない生徒は、購買でパンを購入しその瞬間から袋を開けて教室に戻る途中で食べ歩き、そして食べ散らかしてそのままである。健康管理の側面で話をしても、最後には次第に常識・非常識という立場で話をすることも多くなってきた。マスクミでも顔は洗わなくても・お風呂には入らなくても、お化粧さえしていれば平気で人前にでられる10代の女の子を特集していることもあるが、ある意味健康問題も健康管理能力も常識・非常識の範疇で結論づけられてしまう面もあるのではないかと最近を感じることが多い。ハンカチ・ティッシュペーパーを持ち歩かずとも、「誰かに借りればいい」という発想でいる高校生もいて驚くこともある。これは決してある特定の高校に限ったことではないし、そういう考えの生徒も多くなってきていることをお伝えしたい。

## 2) 本校の健康管理の状況について

高校では、定期健康診断の時期（通常4月当初）に、年一回学校医の検診・身体測定により行う。通年として実施していることは、心と体